

雑草を丸刈りーだ
KOMERIの除草剤 マルガリーダ



1年生雑草から頑固な多年生雑草を一掃



グリホサート液剤



適用雑草と使用方法								
作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	使用量		本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
				薬量	希釈水量			
水田作物 (水田畦畔)	水田畦畔	一年生雑草	雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、 収穫14日前まで	250~500 mℓ/10a	通常散布 100ℓ/10a 少量散布 25ℓ/10a	2回以内	雑草 茎葉 散布	2回以内
		多年生雑草	雑草生育期 (耕起20~10日前まで)	500~1000 mℓ/10a	100ℓ/10a	1回		1回
水田作物 (水田耕起前)	水田耕起前	一年生雑草	雑草生育期 (草丈50cm以下)	250~500 mℓ/10a		2回以内		2回以内
水田作物、畑作物 (休耕田)	休耕田	一年生雑草	雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、 収穫7日前まで	500~1000 mℓ/10a	通常散布 50~100 ℓ/10a 少量散布 25~50 ℓ/10a	3回以内		3回以内
		多年生雑草	雑草生育期 (草丈30cm以下) 但し、 収穫7日前まで	500~1000 mℓ/10a		3回以内		3回以内
だいず		一年生雑草	雑草生育期 (は種7日前まで) 雑草生育期 (草丈30cm以下) (は種後出芽前まで)	250~500 mℓ/10a		2回以内		2回以内
えだまめ		一年生雑草	雑草生育期 (は種7日前まで)	250~500 mℓ/10a		1回		
小麦	圃場内の周縁部	多年生イネ科雑草	雑草生育期 (草丈30cm以下) (耕起前又は は種前まで)		25~100 ℓ/10a	3回以内		
		一年生雑草	雑草生育期 (は種後出芽前)					
小麦類 (小麦を除く)	圃場内の周縁部	多年生雑草	雑草生育期 (草丈30cm以下) (耕起7日前まで)	500~1000 mℓ/10a	100ℓ/10a	1回		3回以内
		一年生雑草	雑草生育期 (収穫7日前まで)	250mℓ/10a	25~100 ℓ/10a	3回以内		
だいこん		一年生雑草	雑草生育期 (耕起又はは種7日前まで)	250~500 mℓ/10a	100ℓ/10a	1回		2回以内
かんしょ		一年生雑草	雑草生育期 (耕起又はは種7日前まで)	250~500 mℓ/10a				1回
キャベツ		一年生雑草	雑草生育期 (耕起又はは種7日前まで)	250~500 mℓ/10a	通常散布 50~100 ℓ/10a 少量散布 25~50 ℓ/10a	3回以内		3回以内
ねぎ		一年生雑草	雑草生育期 (定植後畦間処理) 但し、収穫30日前まで	500~1000 mℓ/10a		1回		6回以内
さとうきび (春植え)		多年生雑草	雑草生育期 (耕起10日前まで)	500~1000 mℓ/10a				2回以内
茶		一年生雑草	雑草生育期 但し、摘採7日前まで	250~500 mℓ/10a	少量散布 25~50ℓ/10a 通常散布 50~100ℓ/10a 少量散布 25~50ℓ/10a	4回以内		4回以内
樹木類		一年生雑草	雑草生育期	250~500 mℓ/10a				2回以内
牧草	牧野、草地 (更新・造成)	多年生雑草	雑草生育期 但し、更新・造成の 10日前まで	500~1000 mℓ/10a	50ℓ/10a	2回以内		2回以内
		一年生及び 多年生雑草	耕起整地後:雑草 発生揃期(は種 10日前~は種当日)	250~500 mℓ/10a	少量散布 25~50ℓ/10a			
樹木等	公園、堤とう、駐車場 道路、運動場、宅地 のり面、鉄道等	一年生雑草	雑草生育期	500mℓ/10a	通常散布 100ℓ/10a 少量散布 25ℓ/10a	3回以内	植栽地を除く 樹木等の 周辺地に 雑草茎葉散布	3回以内
林木	造林地 (地ごしらえ)	ススキ、ササ類 クス等の 多年生雑草、 落葉雑かん木	生育盛期以降	1000mℓ/10a	20~30ℓ /10a		雑草木 茎葉散布	

作物名	適用場所	適用雑草名	使用時期	希釈倍数	使用液量	本剤の使用回数	使用方法	グリホサートを含む農薬の総使用回数
樹木等	公園、堤とう、駐車場、 道路、運動場、宅地、 のり面、鉄道等	落葉 雑かん木	5~10月	原液又は 2倍液	1mℓ/ケ所 樹径 ケ所数 10cm以下 2~3 10~20cm 4~8 20cm以上 10	—	立木注入 処理	—
		雑かん木	伐採直後		切り口全体に 十分量を塗布	植栽地を除く 樹木等の 周辺地に切株 塗布処理		

使用上の注意事項

- 1) 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきることを。
- 2) 本剤はグリホサートを含む農薬であるので、他のグリホサートを含む農薬の使用回数と合わせ、作物ごとの総使用回数の範囲内で使用すること。
- 3) 泥などで濁った水は効果を低下させるので本剤の調整には用いないこと。
- 4) 農着剤の加用の必要はない。
- 5) 本剤は土壌中で速やかに不活性化するので、雑草の発生前処理効果はない。
- 6) 本剤は散布時の雑草の草丈や茎葉面積が大きい程、効果が確実となるので、散布前に雑草の地上部を刈り払わないこと。
- 7) 本剤は通常2~14日で効果が発現し、効果完成までさらに日数を要するので、誤って再散布しないこと。
- 8) 多年生雑草のうち、スギナには効果が劣るので、留意すること。
- 9) だいずの出芽前に使用する場合は、作物の出芽後に散布すると薬害を生ずる恐れがあるので、必ず出芽前に散布すること。
- 10) 雑かん木に塗布処理を行う場合は、伐採後、直ちに切り口全面に直接塗布すること。
- 11) 処理後6時間以内の降雨は効果を低下させることがあるので、天候を良く見極めてから散布すること。
- 12) 少量散布の場合は、少量散布用ノズルを用いて、雑草の葉面に均一に散布すること。
- 13) 水田への飛散、流入等により水稲に薬害を生ずるので、十分注意すること。
- 14) 特に野菜類の生育期畦間散布に使用する場合には作物にかからないよう十分注意して散布すること。
- 15) 農作物や有用植物に薬液が付着すると、激しい薬害が生ずるので、かからないよう十分注意すること。

⑩ 本剤の調製及び保管に際しては合成樹脂の内層のない鋼鉄製(ステンレスを除く)の容器類は使用しないこと。なお散布液を調整した容器及び散布器具は、使用后十分に水洗いすること。

⑪ 本剤の使用に当たっては使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⑫ 土壌が流亡したり、くずれたりする恐れのある所では使用しないこと。

⑬ 公園、堤とう等で使用する場合、特に以下のことに注意すること。

- ① 水源地、養殖池等に本剤が飛散・流入しないよう十分に注意すること。
- ② 散布器具、容器の洗浄水は河川等に流さず、容器、空袋等は環境に影響を与えないよう適切に処理すること。

⑭ 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめ使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用すること。なお、普及指導センター、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

人畜に有毒な農薬については、その旨及び解毒方法

- 1) 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意すること。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けること。
- 2) 使用の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用すること。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼すること。
- 3) 公園、堤とう等で使用する場合は、使用中及び使用后(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払うこと。
- 4) 使用残りの薬剤は必ず安全な場所に保管すること。

除草剤マルガリーダの有効成分であるグリホサートは世界中で広く使用されています。

日本でも除草剤の中では一番多く使用され効果、安全性、経済性で全国の農家さんから高い評価をいただいています。

水田作物、畑作物、果樹園その他幅広い分野で有効に利用されています。

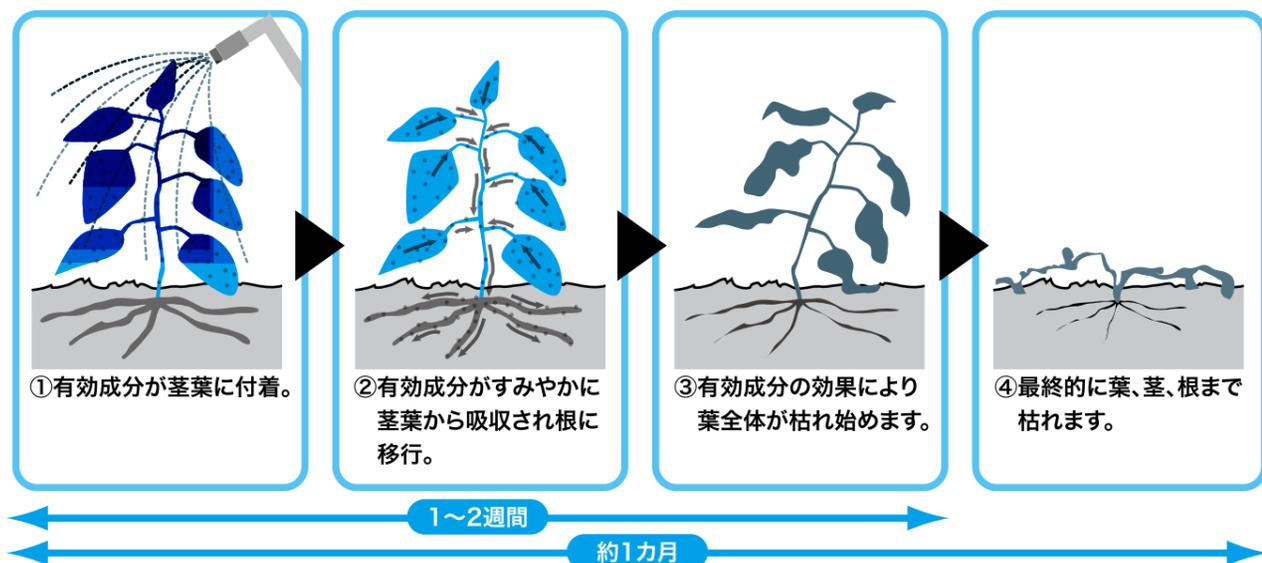
特長

- 生育中の一年生雑草から頑固な多年生雑草を根まで枯らします。
 - イネ科雑草、広葉雑草に有効です。
 - 有効成分は土壤中で速やかに不活性化しますので後作物にも安全です。
 - 接触吸収移行型除草剤ですので作物にかからなければ安全に使用出来ます。
 - 散布時に土に落ちた薬剤成分は1時間以内に土壌粒子に吸着され、その後微生物等により自然物に分解されます。
- ※魚毒性はA類相当なので安心して使用出来ます。

作用機構

グリホサートは植物の芳香族アミノ酸の生合成経路中の5-エノールピルピルシキミ酸-3-リン酸合成酵素 (EPSPS) と特異的に結合し、その活性を阻害することで植物を枯らします。
 このEPSPSは全ての植物に存在することから、グリホサートは一年生のイネ科雑草、広葉雑草や多年生のイネ科雑草、広葉雑草さらに雑かん木類まで幅広い雑草種に殺草効果を示します。

殺草過程



雑草別の薬量

対象雑草に合わせて適切に希釈し使用してください。



使用時期



他の作物は裏面の[適用雑草と使用方法]をご参照下さい。

効果的な使用方法

●雑草発生後に散布！
 薬剤が雑草の茎や葉に付着しなければ効果は発揮されないため、雑草発生前の散布は効果がありません。

●散布はムラなく！
 草丈の異なる雑草が混生している所では、草丈の低い雑草にも十分散布してください。

●きれいな水を使用！
 ドロなどを含まないきれいな水を使用してください。(効果が十分発揮されない要因となります。)

●雨天時の散布は避ける！
 散布後6時間以内の降雨は、効果を低下させる要因となります。

●散布前/散布後7~10日間は雑草を刈らない！
 茎葉部から薬剤が吸収されるため、十分な茎葉面積と時間が必要です。

上手な使い方

●散布は、雑草の生育盛期に一年生雑草:
 草丈が15~30cmになった頃に散布すると安定した効果が得られます。

●多年生雑草:
 根まで枯らすためには、生育盛期から開花期前までに散布するのが効果的です。

●散布方法
 噴霧機もしくはジョウロを使用し、茎葉全体にムラなく、しっとりぬれる程度に散布して下さい。